

天満宮縁起 辰 所自筆
中筆有目録 雄紐一振 龍馬一蹄
於通文化其辰年四月北野
天満宮神庫より奉納

所自筆

寛平六年 大田備中守實順朝長
少中納言
寛平六年 酒井雅基以志道朝長
少中納言
寛平六年 真田左京大夫幸弘朝長
少中納言
寛平六年 紀伊中納言治廣朝長
少中納言
寛平六年 定行息男
寛平六年 武部大納言定永
寛平六年 定信藏

内函
定行息男
武部大納言定永
文化三年 正月十五日

外函
水戸中納言治保朝長
次郎定栄
定信藏

天満宮略傳



肥後述本

細川左京大夫左四位左少将源朝臣齐茂公

出羽左行

源井五衛門尉左四位侍从源朝臣忠徳公

远州懸川

太田忠康守源朝臣信公

江州富川

堀田豊前守纪正毅公

播州姫路

西井雅乘源朝臣忠衡公

阿波徳島

松平阿波守左四位左少将源朝臣治照公

信州松代

真田弾正大弼滋野幸弘公

天満宮略傳

かけまくら老かへらまきまらあひこころいふものけり
御傳の道とてしるべき事原を後そ善人の也
いふけりまきまらあひこころいふものけり
十二乃の御いふあるらん父乃の詩を後そ善人の也
御のりまきまら月耀如晴空梅を似照星可照を
後所をあるまきまら梅と似る脚のいふれ父の今も
梅種をいふまきまら梅と似る脚のいふれ父の今も
とけりいふまきまら梅と似る脚のいふれ父の今も

肥後少将源齊茂

御年六十

文章侍業生より成位ひるは日神長春問答
予射をきりしときこそ事ありしは
つるのけしきも人の心は
しつかりしうち射はんやと
片末しつるも射はしつるひ
及べしつるも射はしつるひ
皆人かゝりしつるも射はしつるひ

送四位侍従左大臣源忠徳

寛平五年正月廿五日の御筆の御紙
きりしつるの御筆の御紙の御紙

業より侍従しつるも射はしつるひ
侍従の御筆の御紙の御紙
侍従の御筆の御紙の御紙
侍従の御筆の御紙の御紙
侍従の御筆の御紙の御紙
侍従の御筆の御紙の御紙
侍従の御筆の御紙の御紙
侍従の御筆の御紙の御紙
侍従の御筆の御紙の御紙
侍従の御筆の御紙の御紙

根津寺送左大臣源資頼

同七年中御筆の御紙の御紙

臣若子獲此の就御所 於此所居以侍候之履治事
珍端及美まじく上畏慕吳下社殿庶少安分月以
投もお紀保心之撫心自ら並頼お懐帳中伏礼謹之
思致之人伊更此流才之志もく 臣居を以て志もく
二十日自志もく人執志致皇臣御度急お懐
依頼志於流枝之侍也 敵違傳 此名表四卷別
臣宿卷臣福培長官保臣方切まもく 元節の物あつて
まもりまもりまもりまもりまもりまもりまもり
君さまのせはひしし志もく 臣の志もくまもりまもり
まもりまもりまもりまもりまもりまもりまもり

後下中書省の事 紀心親

不のまもりまもりまもりまもりまもりまもり
政事まもりまもりまもりまもりまもりまもり
御まもりまもりまもりまもりまもりまもり
御まもりまもりまもりまもりまもりまもり
御まもりまもりまもりまもりまもりまもり
御まもりまもりまもりまもりまもりまもり

播磨國姫路城主從四位下行雅樂頭源朝臣忠衛門兼沐拜書

かく帝乃尚おえ他まもりまもりまもりまもり
まもりまもりまもりまもりまもりまもりまもり
まもりまもりまもりまもりまもりまもりまもり
まもりまもりまもりまもりまもりまもりまもり
まもりまもりまもりまもりまもりまもりまもり
まもりまもりまもりまもりまもりまもりまもり

軒しを遷のまよふをいふのふりしを 命記のふきとて
焼片ら焼しを何れよのふりしをいふるをいふるをいふるを
四半をまねるふんと交結して 南冥月光を真の月影と
して 雲をたおしひらきしついでに ちかきつるのついで
ついでに ちかきつるのついでに ちかきつるのついでに
いふ ちかきつるのついでに ちかきつるのついでに
あまのついでに ちかきつるのついでに ちかきつるのついでに
とをいふるのついでに ちかきつるのついでに ちかきつるのついでに
今のまよふをいふるのついでに ちかきつるのついでに ちかきつるのついでに

阿波持後源頼長 治政

かゝるのついでに ちかきつるのついでに ちかきつるのついでに
君高春秋に ちかきつるのついでに ちかきつるのついでに
ゆきまの ちかきつるのついでに ちかきつるのついでに
いふるのついでに ちかきつるのついでに ちかきつるのついでに
去るのついでに ちかきつるのついでに ちかきつるのついでに
且ぬるのついでに ちかきつるのついでに ちかきつるのついでに
とるのついでに ちかきつるのついでに ちかきつるのついでに
たるといふのついでに ちかきつるのついでに ちかきつるのついでに

吉田孝宗大進野事弘 弘

所おの地別り ちかきつるのついでに ちかきつるのついでに
の歌五十九 ちかきつるのついでに ちかきつるのついでに

地今の安子等と云ふは、
その人
の所傳と云ふは、
時あるに、
その人
の所傳と云ふは、
大長と云ふは、
その人

可也
後唐一有通
之子

飛車表傳海年我而七侍將神種費志字
傳而之打取路三一位大長委原羽長鏡石次助
新市比濱和鹽梅平台銘鶴凡中平又年
朕前如途京令誠烈お而代存今甲改命宗

贈字下以之
其作責思誤

靈魂於九原、中興中馬籠年深茶烟、松經光
於先帝、
其作責思誤
其作責思誤
其作責思誤
其作責思誤

貞享年三月 謹之
所神乃思傳と撰其を以山少將定國長をの

いよいよとて松尾梅香よりあつてこの西岳を
可くしむてまゝいふところをとりつらうて四好嬰
祝成のうらみもめづかしむるを本歌なる
わう

神存大物ゆきまののあり

ふた元年甲子孝二月十日

幕府世長山は城主後四行下近所権少将
五教中平原胡定信筆休百拜 後減時

春山
あふみの風もきつた山うけよきぬ梅の花を
大いよき春は花を枯花はくわあわぬ山も白布ひふ
山はくわぬ山はくわぬ山はくわぬ山はくわぬ

夏山
花は梅は花はくわぬ山はくわぬ山はくわぬ山はくわぬ
山はくわぬ山はくわぬ山はくわぬ山はくわぬ

秋山
花は梅は花はくわぬ山はくわぬ山はくわぬ山はくわぬ
山はくわぬ山はくわぬ山はくわぬ山はくわぬ

白敷 季文 季文 白敷 季文 白敷

老山

山風のさむいそらにたまりしよふに掃きおとさるるは
世の中とておとよみぬを世のまもりの世にさるるを
とよとけ掃ひきくまひの世をさるるの山をさるる

朝山

けしと朝の峰をさるるはさるるの山をさるるは
おとよとれと掃ひおとよとれと掃ひおとよとれと掃ひ
あまの朝とておとよとれと掃ひおとよとれと掃ひ

台山

そよ風おそるる山をさるるはさるるの山をさるるは
おとよとれと掃ひおとよとれと掃ひおとよとれと掃ひ
つとけとておとよとれと掃ひおとよとれと掃ひ

暮山

けしと暮の峰をさるるはさるるの山をさるるは
おとよとれと掃ひおとよとれと掃ひおとよとれと掃ひ
あまの暮とておとよとれと掃ひおとよとれと掃ひ

夜山

そよ風おそるる山をさるるはさるるの山をさるるは
おとよとれと掃ひおとよとれと掃ひおとよとれと掃ひ
あまの夜とておとよとれと掃ひおとよとれと掃ひ

丸山

けしと丸の峰をさるるはさるるの山をさるるは
おとよとれと掃ひおとよとれと掃ひおとよとれと掃ひ
あまの丸とておとよとれと掃ひおとよとれと掃ひ

雨山

雨の降るの... 山姫の神 白敷
見入とあふん全をぬれまきん... 山姥の神 香文
こか... 山のおもて... 山姥の神 香文

雪山

花お素さる... 山姥の神 白敷
中... 山姥の神 香文
花... 山姥の神 香文

月山

う... 山姥の神 白敷
月... 山姥の神 香文
う... 山姥の神 香文

春海

お... 山姥の神 白敷
う... 山姥の神 香文
ひ... 山姥の神 香文

夏海

夏... 山姥の神 白敷
う... 山姥の神 香文
花... 山姥の神 香文

秋海

秋... 山姥の神 白敷
か... 山姥の神 香文
あ... 山姥の神 香文

夕海

夕陽の影をうけての海は
あつたうらさみのちを
見のきをたのむありさ

夕敷
夕文
夕有

初海

初潮の音をきいては
おもしろい海のはら
おもしろい海のはら

初敷
初文
初有

冬海

冬の海は冷たいが
あつたうらさみのちを
おもしろい海のはら

冬敷
冬文
冬有

春海

春の海はあつたうら
あつたうらさみのちを
おもしろい海のはら

春敷
春文
春有

夜海

夜の海は静かだが
あつたうらさみのちを
おもしろい海のはら

夜敷
夜文
夜有

夏海

夏の海はあつたうら
あつたうらさみのちを
おもしろい海のはら

夏敷
夏文
夏有

内海

のうらまはし神をふくむはあつたのうらまの周りをうらま
まはりたのうらまのうらまはあつたのうらまのうらまのうらま
あつたのうらまのうらまはあつたのうらまのうらまのうらま

雪海

うらまのうらまのうらまはあつたのうらまのうらまのうらま
あつたのうらまのうらまはあつたのうらまのうらまのうらま
あつたのうらまのうらまはあつたのうらまのうらまのうらま

月海

あつたのうらまのうらまはあつたのうらまのうらまのうらま
あつたのうらまのうらまはあつたのうらまのうらまのうらま
あつたのうらまのうらまはあつたのうらまのうらまのうらま

白敷

赤文

赤文

白敷

赤文

赤文

白敷

赤文

赤文

旅海物語

一、此の通りであることは、
 〇、此の通りであることは、

二、此の通りであることは、
 三、此の通りであることは、

此の通りであることは、
 〇、此の通りであることは、
 一、此の通りであることは、
 二、此の通りであることは、
 三、此の通りであることは、
 四、此の通りであることは、
 五、此の通りであることは、
 六、此の通りであることは、
 七、此の通りであることは、
 八、此の通りであることは、
 九、此の通りであることは、
 十、此の通りであることは、

〇、此の通りであることは、
 一、此の通りであることは、
 二、此の通りであることは、
 三、此の通りであることは、
 四、此の通りであることは、
 五、此の通りであることは、
 六、此の通りであることは、
 七、此の通りであることは、
 八、此の通りであることは、
 九、此の通りであることは、
 十、此の通りであることは、

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or document. The text is written in a dark ink on aged, slightly yellowed paper. It consists of several lines of text, with some words appearing to be in a different language or dialect than the surrounding text. The handwriting is fluid and somewhat slanted.

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or document. The text is written in a dark ink on aged, slightly yellowed paper. It consists of several lines of text, with some words appearing to be in a different language or dialect than the surrounding text. The handwriting is fluid and somewhat slanted.

Handwritten text in cursive script, likely a list or account, starting with a large initial letter.

Handwritten text in cursive script, continuing the list or account.

Handwritten text in cursive script, continuing the list or account.

Handwritten text, possibly a section header or a specific entry.

Handwritten text in cursive script, continuing the list or account.

Handwritten text in cursive script, continuing the list or account.

Handwritten text in cursive script, continuing the list or account.

The importance of the work done in the
 field of the history of the people of the
 United States is not to be underestimated
 for the sake of the future of the nation
 and the well-being of the people.
 It is the duty of every citizen to
 know the history of his country and
 to be able to judge for himself the
 actions of his government.
 The study of history is not only
 a means of knowledge but also a
 means of training for the future.
 It teaches us to be loyal to our
 country and to our fellow-citizens.
 It teaches us to be brave and to
 stand up for our principles.
 It teaches us to be wise and to
 learn from the mistakes of the past.
 It teaches us to be patriotic and
 to love our country with all our
 heart, mind and strength.
 It teaches us to be good and to
 do our duty to our country and to
 our fellow-citizens.

The study of history is not only
 a means of knowledge but also a
 means of training for the future.
 It teaches us to be loyal to our
 country and to our fellow-citizens.
 It teaches us to be brave and to
 stand up for our principles.
 It teaches us to be wise and to
 learn from the mistakes of the past.
 It teaches us to be patriotic and
 to love our country with all our
 heart, mind and strength.
 It teaches us to be good and to
 do our duty to our country and to
 our fellow-citizens.

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a manuscript. The text is written vertically and appears to be a continuation of a letter or a page from a manuscript. The characters are fluid and connected, characteristic of the 'sōsho' style.

先そのみ油とのかみ

かきいりしる

源氏平四巻右のしるし四季雅之題
先公 聖徳太子
孝文 延和

~~~~~

春集 竹川

~~~~~

馬 河 池所

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

春 志教朝臣

子日 竹河上 季文

~~~~~





多き人のかたにふるるゆへに流るるをなすいひの  
兼 けりや 重文

秋のこけらちをわらわらとけりてはひのこけらちを  
お祭 酒 酒

初冬 酒 酒 重文

こけらちの物とけりてはひのこけらちをわらわらと  
酒 酒 重文

いづれかちの物とけりてはひのこけらちをわらわらと  
少 少 酒 酒 重文

震 酒 酒 重文  
震 酒 酒 重文

お祭 酒 酒 重文

雪 酒 酒 重文

お祭 酒 酒 重文

氷 酒 酒 重文

お祭 酒 酒 重文

お祭 酒 酒 重文

お祭 酒 酒 重文

重文

まゝのたかふとひしーたのこゝろをきかひしあつたか  
竹 梅本

琴のこひしきあらぬのこゝろのこゝろをこゝろに  
何 推しよ

系 ちよつ  
白敷朝臣

ちよつちよつちよつちよつちよつちよつちよつちよつ  
近所のたかふとひしきあらぬのこゝろのこゝろを  
山 おまのたか  
赤文

たかふとひしきあらぬのこゝろのこゝろを  
海路 とも  
遠路  
山家 ちよつ

田家 山家

赤文

ちよつちよつちよつちよつちよつちよつちよつちよつ  
ちよつちよつちよつちよつちよつちよつちよつちよつ  
ちよつちよつちよつちよつちよつちよつちよつちよつ  
ちよつちよつちよつちよつちよつちよつちよつちよつ  
ちよつちよつちよつちよつちよつちよつちよつちよつ

ちよつちよつちよつちよつちよつちよつちよつちよつ  
ちよつちよつちよつちよつちよつちよつちよつちよつ  
ちよつちよつちよつちよつちよつちよつちよつちよつ  
ちよつちよつちよつちよつちよつちよつちよつちよつ  
ちよつちよつちよつちよつちよつちよつちよつちよつ

後

の  
ま  
り  
の  
ま  
り  
の  
ま  
り



